

令和元年度 花園保育園 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、「よくできている」の割合が減少。中でも保育所保育指針の理解や具体的な事例を思い浮かべることができる、という内容には半数以上が「あまりできていない」と評価。再度保育所保育指針に基づいた園内研修の必要性がある。
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの関わりは全体的に評価が高い。 ・その中でも「あまりできていない」評価をする職員に対しての個別フォローが必要である。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。 ・この項目においても自己評価が低い職員に対しての個別フォローが必要である。
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い ・協力と支援の「必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる」について半数近くが「あまりできていない」と評価。職員会議などで共有する必要がある。
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。 ・小学校との連携について評価がばらついており、担当する子どもの年齢によって興味関心を持つ度合いが変わってくることが推察される。小学校との連携について全職員が興味を持てるような工夫が必要である。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねできているという評価が多い。 ・「園舎の構造や保育室の位置・大きさがどのような教育的意味を持つか理解している」が「あまりできていない」と約半数の保育者が回答。園舎のリノベーション工事などがあり、保育室の使い方が大きく変わったことで、保育者自身が試行錯誤の最中であると推察される。 ・保育の専門知識以外への関心が低いと評価。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園に意見や苦情を言いつらいとする回答が昨年度より激減しているが、アンケートの回収時期が新型コロナウイルスで混乱していたこともあり、回収率が4割程度（例年は6～7割回収）ということも考慮に入れる必要があると思われる。 ・子育ての悩みについても保育者に相談できると回答した家庭が約8割。保育者の自己評価とも一致する。 ・園日より、一日保育士体験に関してはほぼ全家庭が読んだり、参加したりしており興味関心の高さがうかがわれる。 ・年度途中入所の保護者から「保育士体験をしていない」という回答があり、きめ細やかな対応が必要。
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答が9割。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も8割。しかし1～2割が「知らない」「よくわからない」と回答していることより、園の基本方針についてのより分かりやすい提示の仕方が求められている。 ・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価は9割弱、園内の評価とも一致する。
★環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価。 ・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高いが、1割程度「時々気になる」「どちらともいえない」がみられる。昨年度は3割であったため、職員会議において結果を共有し、見直しをかけた効果が見られる。 ・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。特に自由記述では「友達のような話し方が気になる」などの意見が見られた。このことについても再度保育者間で確認が必要である。